

木更津市長 渡辺芳邦様

高齢者・障がい者の避難に関する環境整備の要望書

いざ、災害が起きたときは、どんなに人口が多いかではなく、人と人のつながり密度がどれだけ高いかです。これは、過去の災害からの教訓です。

木更津市の高齢化率は地域差があります。特に、大久保団地、八幡台は各丁目とも高齢化率は上位を占めています。地域防災力の強化をするには、高齢化に対応した備えが必要です。

市民ネットワークに、「高齢者が避難できない」という声が届き、実態調査をしました。

今後、学校や公民館など、避難所と指定されている公共施設を更新していく場合は、高齢者や障がい者が利用する視点を入れて行う必要があります。特に高齢化率の高い地域で、環境が整っていない場合は、早急に対応を検討する必要があると考えます。

また、災害時要援護者リストは、各避難所に保管されています。しかし、地域の自主防災組織や自治会などが、活用しきれない状況です。これでは、地域で防災力を活かしきれず、いざというときに役立ちません。

そこで、今後の行政運営をすすめるうえで、下記のように要望します。

1. 避難所を指定されている公共施設を更新していく場合は、高齢者や障がい者の視点を考慮し、バリアフリー化をめざす。
2. 高齢化率の高い地域は、早急な対応を検討し、すすめる。
3. 地域の防災力を活かした災害時要援護者支援ができる環境整備をする。

平成 28 年 4 月 13 日

きさらづ市民ネットワーク
代表 田中紀子